

# 電車どおり



今月の表紙  
函館厚生院グループ  
CSRレポート

2024(表紙)

ホームページ  
はこちら



## もくじ

|  |        |
|--|--------|
| 1. 函館厚生院グループCSRレポート2024<br>が発刊されました・・・ | 2p     |
| 2. 函館厚生院について                           | ・・・ 3p |
| 3. 電子カルテを更新しました                        | ・・・ 3p |
| 4. 子宮頸がんワクチンについて                       | ・・・ 4p |

今回は函館厚生院CSRレポート2024より抜粋した内容が多くなっています。私自身、CSRという言葉はこの機会に初めて知りました。昨今のSDGsなども含めて、これまでの社会活動に対する評価や価値観が大きく変化しております。先日話題になった『コロンブス』に対する社会的評価の変化などはその最たるものではないでしょうか。



### 基本方針

- 道南の基幹病院として急性期医療に取り組みます。
- 断らない救急医療を実践し、住民の信頼と期待に応えます。
- 総合周産期母子医療センター及び北海道がん診療連携指定病院として高度で専門的な医療を提供します。
- 「患者さまの権利」を尊重し、安心して安全なチーム医療を実践します。
- 医療環境の発展と充実のため、地域の行政・医療機関との連携を強化します。
- ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりと人材育成に力を入れます。

- 【患者さまの権利】
- ・安全で良質の医療を平等に受ける権利
  - ・自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
  - ・セカンドオピニオンを求める権利
  - ・自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
  - ・個人のプライバシーが守られる権利
  - ・個人として常にその人格、価値観が尊重される権利
- 【患者さまの義務】
- ・自らの健康状態を医療者にできるだけ正確に知らせる義務
  - ・医療者の説明や自らの疾病状態の理解に務める義務
  - ・病院の規則や医療者の指示に従い、医療に参加・協力する義務
  - ・他の患者さまの治療や医療者の業務に支障をきたさない義務
  - ・受けた診療に対し、医療費を支払う義務

# 1. 函館厚生院グループCSRレポート2024 が発刊されました

この度、函館厚生院グループCSRレポート2024 が発刊されました。

CSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）経営とは、企業は利益を追求するだけでなく、環境問題や人権問題への対応をはじめ、さまざまな社会的な責任を果たすべきとする考え方やその取り組みを経営に取り入れることを指します。

函館厚生院グループは、職員だけでなく、患者さんや利用者さん、地域住民など、世の中のさまざまな人々と深く関わり合いながら活動しています。こうしたステークホルダー（利害関係者）と函館厚生院グループとの信頼関係を築き、社会の一員として社会貢献活動や環境問題に取り組むなど、長期的な視野に立った経営を行ってまいります。

今回発刊されたCSRレポートは施設の垣根を超えて、厚生院グループで2023年度の各事業におけるCSR活動の内容を報告書としてまとめたものです。

その中で当院の取り組みについては、“オンラインマザークラス” “NICU・GCU開設50周年記念市民公開講座” “こども子育て支援室「あそっか」” について掲載されております。

CSR REPORT

## 子育てママの不安を解消

中央病院



### オンラインマザークラス

出産予定の妊婦さんに対し、妊娠中から少しでも出産や産後への不安や疑問を解消して入院することができるよう、中央病院では母親学級（マザークラス）を開催しています。コロナ禍前は対面形式でしたが、現在はオンラインで実施しています。妊婦さん自身の身体のこと（産科・婦人科）やお子さん（小児科）に関してだけでなく、出産・育児に向けた準備物品等も含めて、幅広い情報提供を行っています。

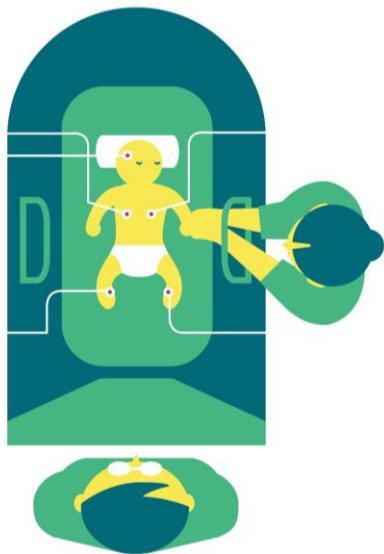
## 命の大切さを伝える

中央病院

### NICU・GCU開設50周年記念 市民公開講座

中央病院は令和5年7月、NICU・GCU（未熟児センター）開設50周年を迎え、これを記念し、11月25日に市民公開講座を開催しました。1,000名を超えるお申込を頂戴し、抽選のうえ、当日は約300名にご来場いただきました。まず中央病院木田副院長による『～今までの歩みと、今後の展望～』と題した講演を行い、次にTEAMNACSリーダー・森崎博之氏による『生きることは食べること』と題した特別記念講演を行いました。最後は木田副院長および森崎氏に加え、北海道大学総長・寶金清博氏と函館市長・大泉潤氏の4氏による「待たなし、少子化について考える」と題したパネルディスカッションを行いました。いずれも大いに盛り上がり、あっという間の2時間となりました。この他、NICU・GCU開設50周年を記念したムービーを作製しました。中央病院のYouTubeチャンネルにアップしておりますので、ぜひご覧ください。

- NICU: Neonatal Intensive Care Unit (新生児特定集中治療室)  
早産児の容態を24時間体制で全身管理するための施設です。日本では1970年頃から導入されました。
- GCU: Growing Care Unit (新生児回復室)  
NICUでの集中治療により容態が安定した新生児が入院するための施設です。



## こどもたちは地域の宝

中央病院

### 子育て支援室「あそっか」

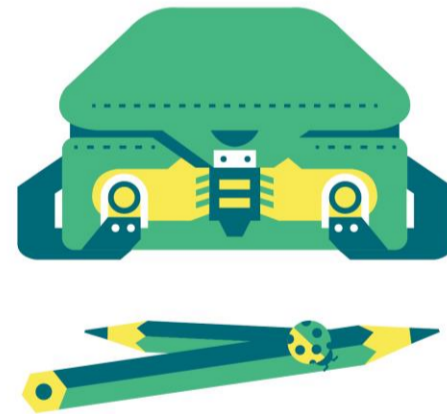
函館・道南では、15歳未満の人口が年々減少しています。このようななか、大人がこどもを大切に、こどもが輝き続ける地域としていくため、中央病院に「こども子育て支援室」を設置しました。部屋の愛称は「あそっか」と言います。考え方がネガティブになってしまったが、話し合いなどにより、その理由を分かち合い、ポジティブに変わる時に思わず口にするフレーズ「あ、そっか!」。こども子育て支援室では、一人一人の難しさや苦しさを一緒に考え、「あそっか」と気づき、ポジティブな考え方に交換するサポートができればと考えています。また、この部屋は心に留めるべき理念をもって設置しています。

「こどもと共に、子育てと共に、地域と共に」

こどもを第一に考えている多くの方々を支えられ、活動を行っています。これからも地域の関係機関と互いに応援し、支え合い「地域と共に」成長することを目指しています。こどもに関する様々な相談内容（医療や受診の相談、医療費や福祉制度、こどもの預かりや子育ての息抜き・休憩、学習や学校について、家庭問題、こどものケガや事故、子育てグッズ、性的マイノリティ、ことばの相談）について医師や看護師など多くのスタッフが対応しています。また、障がいを持つこどもたちとその家族を紹介する「紹介ボード」や、おさがりとして寄付頂いた衣類を必要な方へ提供する「おさがりコーナー」も設置しています。そのほか、こどもに関わる様々な職種の方を対象に、こどもに関する知見や各職種について相互理解を深める『チャイルドファーストはこたて』や、こどもの性虐待被害の聞き取りに関する研修『RIFCR※研修会』の開催、医療的ケア児とその家族

を対象とした『お空見サロン』の開催など、地域のこどもに接するスタッフを対象とした研修会・情報交換会の開催も行っています。

※RIFCR（リフカー）とは  
子どもの周囲にいる大人が性虐待、身体虐待、ネグレスト、DVの目撃など人には話しづらい経験をしたことが疑われる子どもにどのように面接し何を聞くべきで何を聞くべきではないかという点を半構造化した面接プロトコル。



函館厚生院グループ  
CSRレポート 2024  
はこちらからご覧ください  
↓↓↓



実際のCSRレポート2024は左のQRコードからご参照ください。

なお、今月の電車どおりの背景はCSRレポートの表紙を使用しております。

## 2. 函館厚生院について

改めて、函館中央病院を含む15の病院・施設等からなる社会福祉法人 函館厚生院 についてCSRLレポートより抜粋をして簡単にご案内いたします。

当院は1900年（明治33年）、仲山與七・上田大法・寺井四郎兵衛の3氏が、行き倒れた行旅病者や度重なる大火で生活の途を失い失意に暮れる老・幼・病の人々を救わんとして「函館慈恵院」を創設したことに始まります。

その後、それぞれの時代の要請に応じて、保健・医療・福祉の分野で地域における中心的な役割を担う社会福祉法人へと成長してきました。今日では、函館市及び七飯町に3つの病院、12の施設と看護専門学校を展開し、グループ全体の職員数も約3,000人にのぼっています。

### 函館厚生院シンボルマークについて



飛躍感のある二つのフォルムは、「心」と「体」の健康を表し、それが重なり合っ  
てハートを形成しており、函館厚生院が目  
指す「心身ともに健康であることこそ本当  
の健康である」ことを表現しています。

函館厚生院創立100周年を記念し、平成12年1月13日に制定されました。

### 函館厚生院グループの運営施設と事業

|   |   |   |   |       |
|---|---|---|---|-------|
| ■病院   |   |   | ■本部   |       |
|    |    |    |    |       |
| 函館中央病院<br>(527床)  | 函館五稜郭病院<br>(480床)   | ななえ新病院<br>(199床)  | 本部事務局   |       |
| ■介護老人保健施設(介護・リハビリ)  |   | ■介護老人福祉施設(介護・生活支援)  |   |       |
|   |   |   |   |       |
| ケンゆのかわ<br>(定員150名)  | もも太郎<br>(定員100名)  | 百楽園<br>(定員129名)   | ももハウス<br>(定員60名)  |       |
| ■養護老人ホーム  |   | ■軽費老人ホーム(ケアハウス)   |   | ■救護施設 |
|  |  |  |  |       |
| 永楽荘<br>(定員150名)   | ケアハウス豊寿<br>(定員50名)  | ピアノエス<br>(定員50名)  | 高丘寮<br>(定員120名)   |       |
| ■介護予防・在宅支援・自立支援相談機関   |   | ■看護学校   |   | ■児童福祉 |
|  |  |  |  |       |
| 函館市地域包括支援センター<br>たかおか   | 函館市地域包括支援センター<br>ゆのかわ   | 函館厚生院看護専門学校<br>(定員120名)   | くすみ学園<br>(定員45名)  |       |

## 3. 電子カルテを更新しました

電子カルテ更新に伴い、4月27日を休診させて頂き、皆様にはご不便をおかけいたしました。おかげ様を持ちまして4月末日に電子カルテを入れ替え更新を無事に行うことができました。

更新後には機能変更やレイアウト変更等によりスタッフが戸惑う場面もあり、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、何卒ご容赦頂ければ幸いです。



## 4. 子宮頸がんワクチンについて

2022年4月よりHPVワクチン（子宮頸がんワクチン）の接種の積極的な勧奨が再開となっています。

HPVワクチンはもともと2013年4月に定期接種化されましたが、ワクチン接種後に様々な症状が出現した女性がいることが報じられ、わずか2か月で積極的勧奨の差し控えとなりました。2019年頃までは定期接種であるにも関わらず接種率が1%未満という非常に低い状況でした。

この間にワクチンの副反応に関する審議が行われましたが、歩行障害や集中力の低下、月経障害などの症状はいずれも接種による発生頻度の差がなく、厚生労働省では「ワクチンの安全性に関して特段の懸念は認められない」との結論に達したため2021年11月に積極的勧奨の再開が決められました。

じつは勧奨再開前の2020～2021年には接種率が徐々に上昇してきており、2020年以降の新型コロナウイルスの流行と大規模なワクチン接種が行われたことでワクチンへの一般的な理解が広がったことも要因と考えられます。



産婦人科 科長・田沼 史恵

現在定期接種の対象年齢は小学校6年～高校1年の女子です。基本的には中学1年時に自治体から個別に予診票が送付されます。同じ種類のワクチンを決まった間隔で接種することになりますが、接種するワクチンの種類や年齢によって回数・タイミングが異なります。

また、積極的勧奨が行われなかった約8年間に接種の機会を逃した年代の方に対してはキャッチアップ接種が行われています。これは1997年度から2007年度に生まれた方を対象としており、2022年4月から2025年3月までの期限となっているため公費で受けるためには2024年9月までに接種を始める必要があります。

HPVワクチンは16歳より前に接種するのが効果的ですが、それより後の年代で接種しても一定の効果はあることがわかっています。

子宮頸がんの罹患を防ぐためにはこの機会に接種を受けることをおすすめします。



社会福祉法人 函館厚生院